

1. 水産業・漁村の多面的機能で答申

日本学術会議(日本の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をとりまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関)では、去る8月3日、水産業や漁村が食料の供給以外にも環境や文化を守る上で大きな役割を果たしているという報告書をまとめ亀井農林水産大臣に答申を提出しました。

同会議は昨年10月に農林水産大臣から、地球環境・人間生活に係わる水産業及び漁村の多面的な機能の内容及び評価について諮問を受け、特別委員会を設置して検討していました。

報告書では、水産業には海藻やプランクトンといった海中の有機物を適正な量に維持する効果があり、有機物が増えすぎて深刻な環境汚染をもたらす「富栄養化」を防止する上で大きな役割を果たしていることを指摘しました。

さらに、各地区の漁村が多様な伝統的漁法や伝統的な食文化を継承している文化的意義も強調しました。

また、国内にある23万隻の漁船や約5千の漁村が相互に情報網として結ばれており、国境海域の監視や、海難事故が発生したときなどにボランティアとして救助活動で大きな実績を上げていることも指摘しています。

農水省は報告書を踏まえ、さらなる国民的理解の形成に向け、広く国民に対してその内容の周知に努め、定量評価についてさらなる調査研究に取り組むとともに、多面的機能が将来にわたって適切かつ十分に発揮できるような施策を推進していく考えです。

2. 黒潮「大蛇行」発生

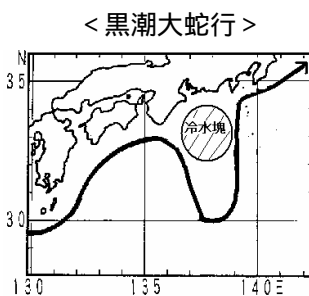
気象庁では、去る8月4日東海地方の沖で、黒潮が本州から大きく離れて流れる「大蛇行」となったことを人工衛星や漂流ブイによる観測で確認したと発表しました。

気象庁の4日までの観測では、黒潮は昨年末に九州の東方海域に蛇行が出現して、徐々に東に移動し東海沖で大きく発達し、最も南下した蛇行が、本島の南約400^{km}付近に達し通常より約200^{km}南にずれています。

黒潮が「大蛇行型」の流路になると、蛇行した黒潮と本州南岸の間には、下層の冷たい水が湧き上がり、「冷水塊」が発生します。このような冷水塊と大蛇行が発生するとカツオの漁場形成やシラスの漁況に影響し、長引くと伊豆半島沿岸の磯焼けなども心配されることから、今後の動きには注意が必要です。

また、1979年の大蛇行時には鳥羽(三重県)で39^{cm}の潮位の増加が観測され、名古屋などで低地への浸水被害が発生しました。

同庁では日本沿岸の最近5年間の平均的な潮位は、この100年で最も高い水準にあり、79年より潮位が高くなる恐れがあることから、運航船舶や漁船に警戒を呼び掛けています。



3. 河川・海域の環境総点検 再生計画作成へ

国土交通省ではこのほど、河川の上流から海の沿岸域までを対象に、生物の生息しやすさや土砂の流れ、景観への配慮などを河川ごとに総点検して、健全な流域に戻すための改善目標や達成時期、必要な事業を盛り込んだ再生計画を2005年度から作成する方針を固めました。

再生計画の内容は、河川ごとに作る整備計画に位置付けて重点的に実施し、整備効果をあげる考えで、魚道の設置、土砂を海に流すことが出来るダムの整備、人工干潟づくりなどの事業を優先的に盛り込むことになりそうです。

これまでの河川整備では、水道水や農業用水への利用、治水を優先したダムや堤防の整備、河川の直進化を進めた結果、河川が本来持つ連続性を断ち切り、生物がすみにくくなってしまいました。ダムが土砂をためているため海岸が浸食して細ることや、河川周辺の景観を破壊しているなどの問題も引き起こしています。

総点検の結果は「流域・海域カルテ」にまとめ、例えば生態系関係では、アユなど川の健全性をチェックする生物を川ごとに選定し、「海から上流までアユがさかのぼることができるか」などの視点から 魚道整備は十分か 十分な水の流れがあるか、などを監視します。これを受け段差の解消や魚道の整備、放流量を増やすためのダムの改善、直進化した水路を昔の姿に戻す自然再生などの事業が必要な場所を選び、何年までにアユが川を上れるようにするかなどの目標を設定します。

4. 初心者船釣教室開催される

- 県遊漁船業協会 -

県遊漁船業協会(大崎幸三会長)では、船釣に対する関心を高め、新たな利用者の開拓を図るとともに、水産資源の保護培養と海の環境保全、更には海の利用に対する認識の高揚を図ることを目的として、去る8月8日由比港漁港において当協会加入の由比港漁協9隻の協力を得て、船釣初心者を対象とした「初心者船釣教室」を開催しました。

当日は、県内から約90名(小学生から72歳)が参加し、釣道具の取扱い方や乗船上の注意事項の説明を受け、由比沖で遊漁船業者の指導のもと約3時間にわたりマアジなどの釣を体験しました。

5. 「魚食と健康について」ホームページ新装

農林水産省では、同省のホームページに、魚介類を食べることによる利益とリスクの情報を得たい人のために、いくつかの物質や成分を例に挙げてわかりやすくした「魚食と健康について」の内容を新たに加えました。

内容は、魚介類摂食の特徴、健康に悪影響を与える可能性のある魚介類中に含まれる物質、魚介類の栄養・機能性を分類し概要を紹介しています。また、魚介類に含まれる汚染物質の最新の調査結果などは随時更新されます。

問合せ先：消費・安全局衛生管理課魚類安全室 TEL03-3502-8111

HPアドレス = <http://www.maff.go.jp/fisheat/fish-top.htm>

6. 諸会議・日程(8月17日(火)~8月30日(月))

- 既報分省略 -

8月26日(木) JF静岡女性連 = 理事会 (県水産会館)

8月27(金)~28日(土) 県漁青連 = 関東・北陸・東海ブロック会議 (県水試浜名湖分場)